●世界の主な地震

平成 26 年（2014 年）10 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図１に示す。また、その震源要素等を表１に示す。

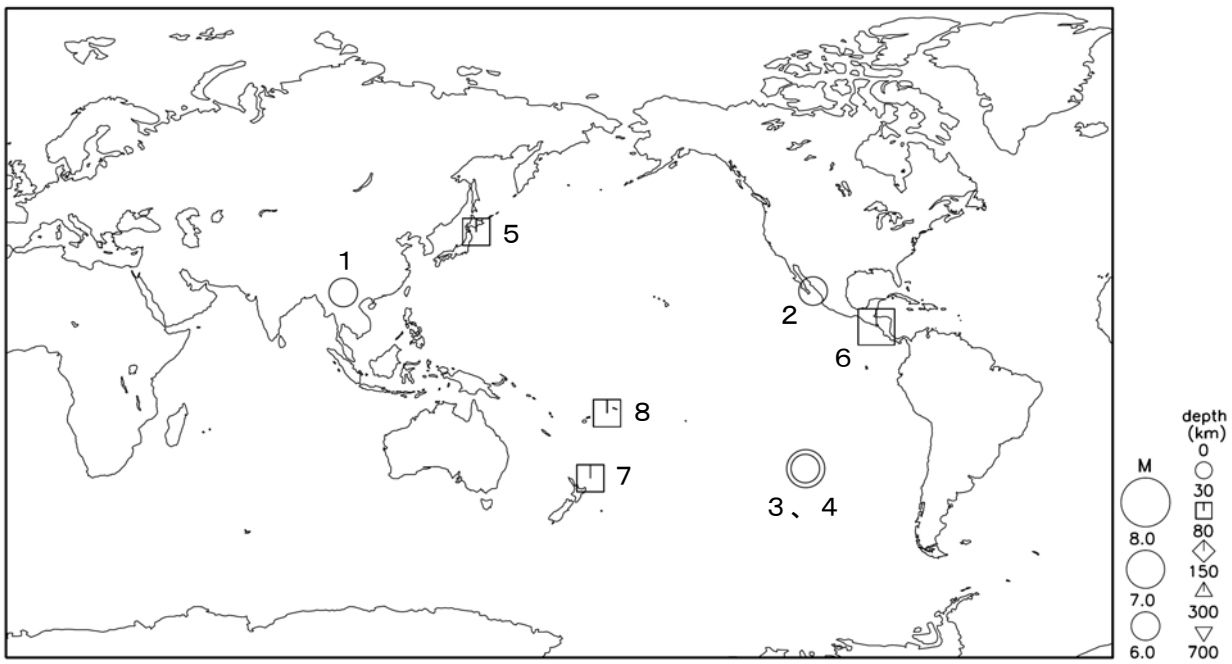


図１　平成 26 年（2014 年）10 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

＊　：震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの”Earthquake Archive Search & URL Builder”（http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/）による（2014 年 11 月３日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素は気象庁による。
＊＊：数字は、表１の番号に対応する。
＊＊＊：マグニチュードは表１の mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）、Mw（モーメントマグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

表１　平成 26 年（2014 年）10 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考（被害状況など）	北西	遠地
1	10月07日22時49分	N23° 23.1′	E100° 29.2′	11			6.0	中国、雲南省	死者１人、負傷者323人など		
2	10月08日11時40分	N23° 49.0′	W108° 25.3′	10			6.2	メキシコ、カリフォルニア湾			
3	10月09日11時14分	S32° 06.8′	W110° 46.7′	16			(7.0)	東太平洋海膨南部	チリのイースター島で47cmなどの津波を観測		○
4	10月09日11時32分	S32° 06.5′	W110° 53.3′	10			6.6	東太平洋海膨南部			
5	10月11日11時35分	N40° 57.1′	E143° 14.6′	36		6.1	(6.0)	青森県東方沖			
6	10月14日12時51分	N12° 34.5′	W88° 02.7′	40			(7.3)	中央アメリカ沖	エルサルバドルで死者１人、建物損壊など		○
7	10月14日13時12分	S34° 55.0′	E179° 58.1′	31	6.1			ケルマデック諸島南方			
8	10月28日12時15分	S15° 11.5′	W174° 39.9′	35			6.1	トンガ諸島			

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの”Earthquake Archive Search & URL Builder”（http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/）による（2014 年 11 月３日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Ms の欄に括弧を付して記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
・被害は、新華通信社（2014 年 10 月８日現在）、国営ラジオエルサルバドルによる（2014 年 10 月 14 日現在）。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（10 月 31 日現在）。
・地震発生時刻は日本時間［日本時間＝協定世界時＋９時間］である。
・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）（地震・火山月報（防災編）2005 年５月号参照）を発表したことを表す。
・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

気象庁作成

10月９日　東太平洋海膨南部の地震

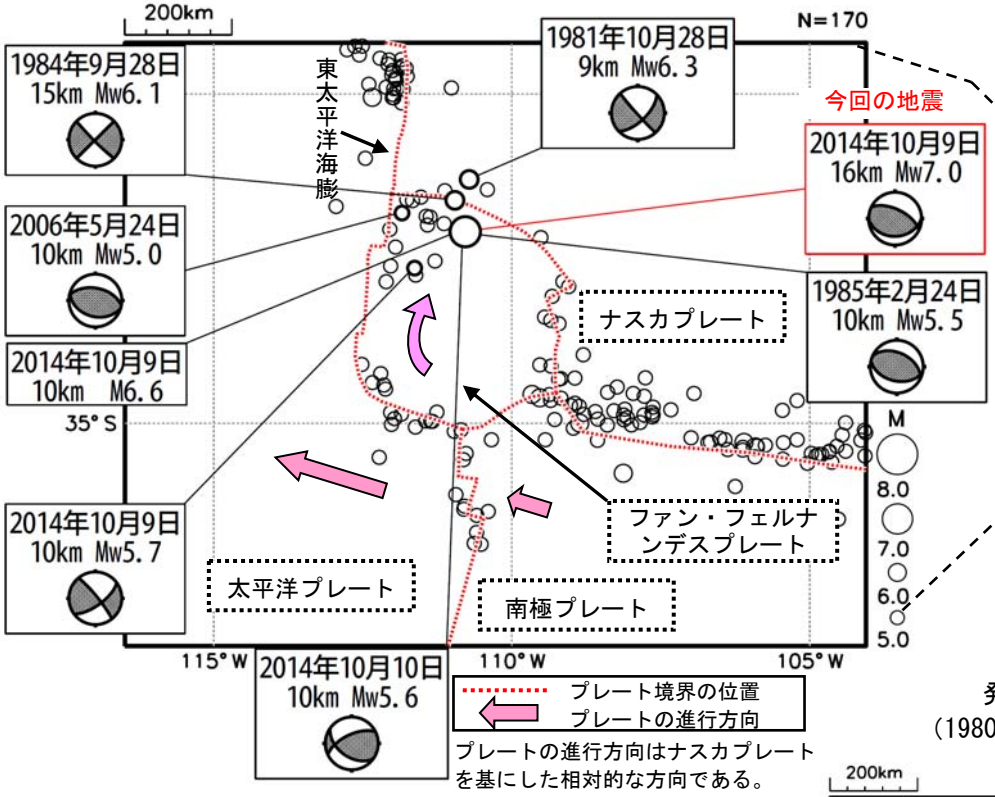
2014年10月９日11時14分（日本時間）に、東太平洋海膨南部の深さ16kmでMw7.0の地震が発生した。この地震はファン・フェルナンデスプレート（マイクロプレート）内で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は北北東－南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

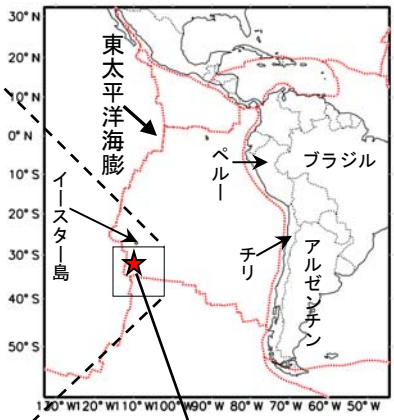
気象庁は、この地震について、同日12時14分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「震源の近傍で津波発生の可能性があります。日本への津波の有無については現在調査中です。」）、同日14時16分に同情報（日本国内向け、「この地震による日本への津波の影響はありません。」）を発表した。

この地震により、津波が発生し、チリのイースター島で47cmなどの津波を観測した。

1980年１月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（下図範囲内）ではM6.0以上の地震がしばしば発生しているが、M7.0以上の地震の発生は今回が初めてである。

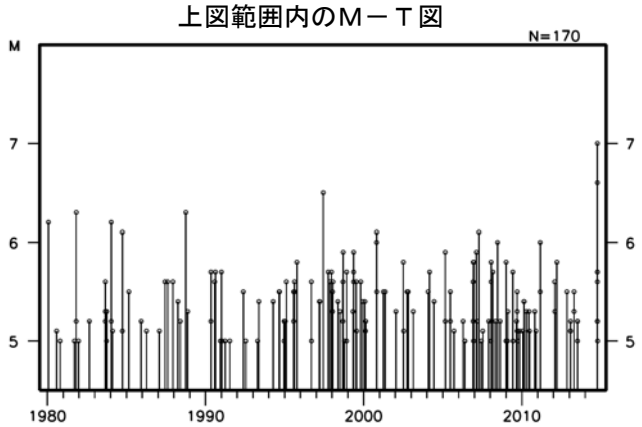
震央分布図
（1980年１月１日～2014年10月31日、深さ０～100km、M≧5.0）



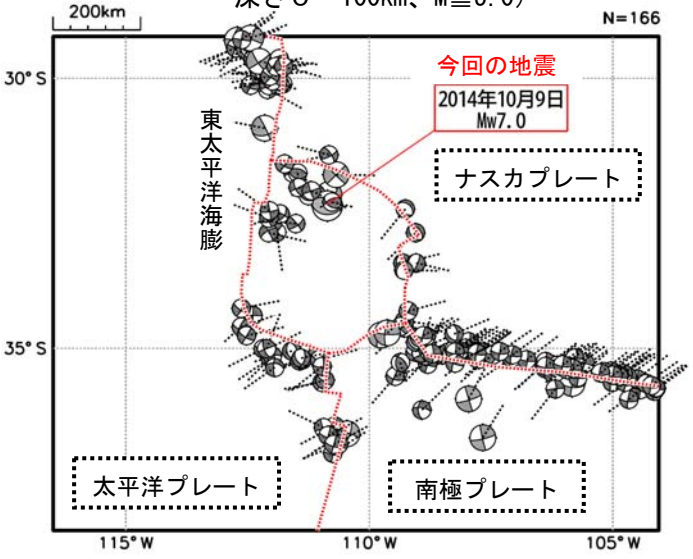


プレートの進行方向はナスカプレートを基にした相対的な方向である。

上図範囲内のＭ－Ｔ図



発震機構（CMT解）の分布図
（1980年１月１日～2014年10月31日、
深さ０～100km、M≧5.0）



発震機構から伸びる点線は張力軸の方向を示す。

※本資料中、今回の地震の発震機構（CMT解）とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構（CMT解）とMwはGlobalCMTによる。その他の震源要素及び被害は米国地質調査所（USGS）による。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（10月31日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

＊参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, Geochemistry Geophysics Geosystems, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成

10 月 14 日　中央アメリカ沖の地震

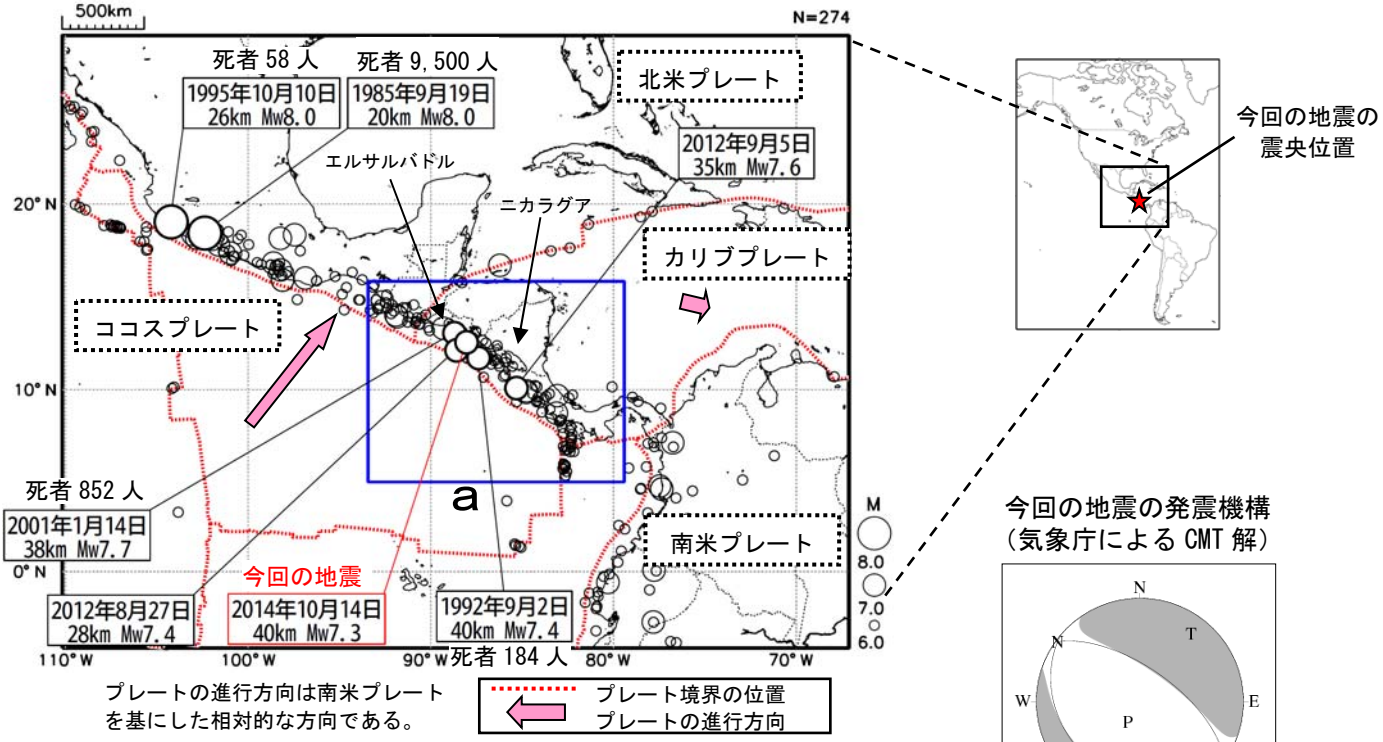
2014 年 10 月 14 日 12 時 51 分（日本時間）に、中央アメリカ（エルサルバドル、ニカラグア）沖の深さ 40km で Mw7.3 の地震が発生した。この地震は、発震機構（気象庁による CMT 解）が北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型で、沈み込むココスプレート内部で発生した。

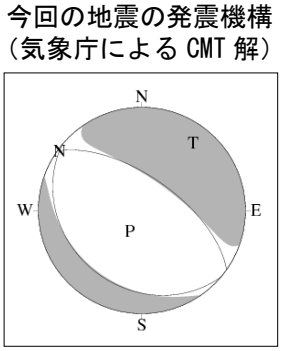
気象庁は、この地震について、同日 13 時 21 分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「震源の近傍で津波発生の可能性があります。この地震による日本への津波の影響はありません。」）を発表した。

この地震により、エルサルバドルで死者１人、建物損壊などの被害を生じた。

1980 年１月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 a）では M7.0 以上の地震がしばしば発生している。2001 年１月 14 日には Mw7.7 の地震が発生し、死者 852 人などの被害を生じた。

震央分布図
（1980 年１月１日～2014 年 10 月 31 日、深さ０～100km、M≧6.0）



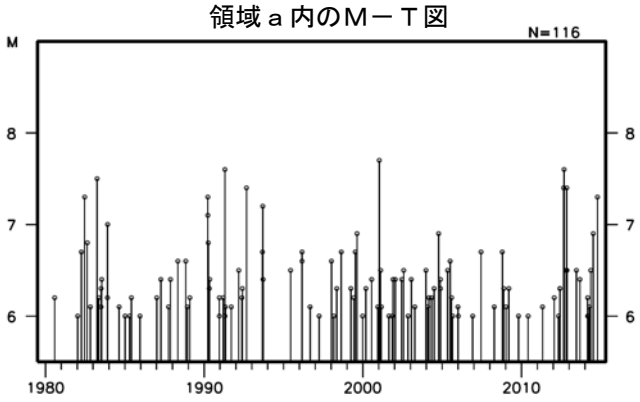


プレートの進行方向は南米プレートを基にした相対的な方向である。

プレート境界の位置
プレートの進行方向

1980 年１月～2012 年７月までは M8.0 以上の地震、及び M7.0 以上でかつ死者 100 人以上の被害が生じた地震、2012 年８月以降の地震は、M7.0 以上の地震に吹き出しを付けた。

領域ａ内のＭ－Ｔ図



※本資料中、今回の地震、2012 年８月 27 日と 2012 年９月５日の地震の発震機構（CMT 解）と Mw は気象庁による。その他の地震の Mw は GlobalCMT による。その他の震源要素及び被害は米国地質調査所（USGS）による。
今回の地震の被害は、国営ラジオエルサルバドルによる（2014 年 10 月 14 日現在）。過去の被害は、宇津及び（独）建築研究所国際地震工学センターによる「宇津の世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向は Bird（2003）*より引用。

＊参考文献
Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, Geochemistry Geophysics Geosystems, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成